四国森林管理局 森林技術・支援センター

次世代につなげる森林づくり

NO.１２号

平成 26 年 12 月 17 日

★協定に基づき愛媛大学で「小型囲いわな」を用いてシカ害対策検討会を開催！

◆十一月二十七日～二十八日

◆愛媛県松山市米野地区にある愛媛大学附属演習林において、「小型囲いわな」を用いたシカ害対策検討会を行いました。

四国森林管理局と愛媛大学で森林の多面的機能の持続的発揮、森林・林業の再生及び地域振興の推進を目的に連携と協力に関する協定を本年六月に締結しており、この協定に基づく取組みの一環として、多くのシカ被害が見られる同演習林で「小型囲いわな」を用いて対策検討会を行うことになりました。

◆初日は午後から愛媛大学農学部において、当センター所長による「小型囲いわな」と「シカ捕獲試験について」の説明を行いました。

◆二日目には、農学部の教授や大学職員、学生の皆さんと一緒に、演習林にてシカ痕跡の見方や「小型囲いわな」の設置実演を行いました。

説明の様子

みなさん熱心に！

◆演習林内には、シカの足跡や糞が多くあり、大きい個体の足跡も確認されました。

シカの足跡

シカの糞

◆今後も愛媛大学との連携した取組みを積極的に進めていくこととしています。

★平成二十六年度第二回技術開発委員会を開催

◆委員から貴重な意見も！

◆十二月十二日

今年度第二回目の技術開発委員会を局二階会議室で開催しました。

この委員会は、先般（十二月九日）、局内委員による「連絡会議」を踏まえ開催しており、有識者で構成されています。

◆今回の審議課題は、

①囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験（完了報告）

②下刈省力化によるシカ食害低減効果の検証（中間報告）

③※二十七年度新規課題としてモウソウチク林整備の一考察について

説明する業務係長

委員会の様子

◆委員からは、囲いわなに誘引する方法のデータ整理、シカを誘引する工夫の軽量化、扱い方が軽いて「今後、シカを誘引する図り具体的な誘因を明確にしてもらいたい。」「新規課題にしては、新たな試みである。」

④竹を利用したシカ食害対策について

の四課題について意見等を伺いました。

なり、やる価値は十分にある。」

意見が出されました。

◆当センターではこれらの意見を踏まえ、今後の技術開発、普及支援に活かしていく考えです。